

## 地域の自然と文化を生かしたまちづくり

### —地区の伝統・文化を見直す—

文殊公民館

#### 1 地区の紹介

霊峰文殊山に抱かれた田園地帯である。市中心部から7キロ程の距離にありながら、自然豊かな地区である。古くから人々の暮らしが残した歴史・文化が今なお色濃く現存し、旧来の伝統が弱まったとはいえ、社会や時代が様変わりしていく中、生活に連綿と根付いている。同時に旧弊にとらわれない闊達な風土も備えており、人々の暮らしはしっかりと大地に根付いている。

現在、JR、国道8号線、高速道路が通り、福井市の大動脈を支えている。また、数年後には新幹線も走る。人口約2,400人、戸数620戸(平成27年4月現在)のこじんまりした地区である。

#### 2 公民館の活動



多岐にわたる教育事業を中心に、活発な活動を行っているが、5年計画で、度ごとにテーマを設定し、それに基づく取り組みを進めている。平成26年度は「地区の伝統・文化を見直す」、平成27年度は「安心・安全な地域づくり」であり、地区の諸団体と連携しながら取組を行っている。この計画は、将来の地区の構想を描くために、地区を再発見し、課題をつかもうという一連の取組であり、また活動を通して地区の人々の心の結びつきを強くしていこうという期待もある。

#### (1) 郷土学習

伝承料理を学び、地区の食材を見直すという視点に立ち、実際に料理を作り、味わう活動に取り組んでいる。親子を対象に、伝承料理の作り方やお膳で食事をする体験をしてもらっている。子どもたちが、打ち豆作りに楽しそうに取り組んでいたのが印象的であった。

#### (2) 市民学習活動促進事業

講師を招いて能楽体験、門松づくり、菊栽培など、地区の方々から要望のある学習内容を提供している。

#### (3) 若者の地域参画

新成人の集いでは、地元の方に伝承料理の幕の内弁当を作っていただき、ふるさとまごころいっぱい詰まったお弁当を参加した若者に提供した。お弁当に舌鼓を打ち、話に花を咲かせていた。また、そば会では、老若男女が参加してそば打ちを体験し、挽きたて、打ちたて、茹でたてのそばを堪能した。

#### (4) 福井学（はつらつ伝承塾）

小学3年生を対象に「ふるさと発見—文殊のひみつ—」という出前授業を行っている。平成26年度には、「文殊山のひみつ」、「だんごまきのひみつ」、「大土呂駅のひみつ」、「宇野重吉のひみつ」等の資料を用意して出前授業を行った。郷土学習の時間に地元の自主グループのメンバーが屋台方式で子どもたちに話をし、質問に答えたという活動である。

#### 3 行事紹介

##### (1) 文殊やまのぼり大会と「歩こう会」

平成27年度で21回目を迎える恒例の行事である。文殊山登山に挑戦し、その後、広場での記念演奏会や鍋のおもてなしに地区内外の人が集い自然の懐で半日を楽しんでもらう行事である。スタッフには地区の各種団体に学生ボランティアも加わり、参加者

は多い時は700名を超える。

「歩こう会」は、自然あふれる地区を歩いて、歴史・文化を探り、専門家に地区にまつわる話を聞く会である。仲良く歩いて健康にも努め、併せてふるさとのことを学ぶという企画で、文殊山の自然観察会と文殊山にゆかりのある地区の歴史遺跡や文化財を探訪するものである。

年3回実施している。

## (2) 地域の学校や団体との連携

文殊公民館の取組の特長のひとつとして、自主サークルや幼保小中高及び児童館との連携を積極的に進めている。公民館がコーディネーター的役割を担うのではなく、公民館事業に積極的に結びつけるようにしていることである。

例をあげると、小学校への出前事業に自主サークルが参加。それに対して公民館は子ども用資料を作成する。子どもたちからはお返しに「カルタ」や「感想文集」が寄贈される。また教育事業で中学生が地区の人たちと一緒にもちつきに参加し、試食する。幼稚園や保育園、児童館で教育事業を行う。お返しに公民館に幼児・児童が来訪し、イベントに参加をする。さらに、自主グループに料理に関する教育事業に参加・協力していただくといったことである。



## (3) 特別編

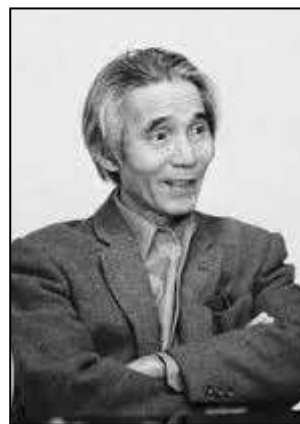
宇野重吉生誕100周年記念事業（平成26年度）地域の生んだ演劇人、宇野重吉の生誕100年を記念し、宇野さんの記憶を呼び起こそうという事業を、福井市中央公民館の福井学基礎講座と共催で行った。

7月12日（土）には、「演劇に生きた宇野重吉ー一誕生百年を迎えてー」というテーマで、宇野重吉顕彰特別事業・演劇祭実行委員会事務局長の飯田正寿氏に文殊公民館で講演していただいた。当日は、文殊

地区の人や福井学基礎講座の受講生、総勢100名以上が耳を傾けた。

また、米倉齋加年さんの劇団「海流座」をはじめ、多くの関係者の協力を得て、講演会、トークショー、映画会、テレビ番組試聴会、演劇碑看板設置などの催事を行い、記念誌も発刊した。さらに母校の小学校児童にも宇野さんの学習の機会を設けた。

そして、宇野さんの〈演劇の碑〉を保存していく活動を地元に住む機運にもつながった。



## 4 明日へ

文殊地区の課題に気づき、課題への取り組みを通して地区のみなさんの心の結びつきが強まり、地区のみなさんの日々の生活が闊達で潤いのあるものになり、安心して暮らせる〈環境〉が築かれる土台づくりも公民館の果たす役割の一つである。そうした積み重ねが地区の人々の将来の展望を描く大切な要素となっていくと考え、みんなの公民館としてより充実した活動に取り組んでいる。公民館が、人と人とのネットワークをつくり、ささやかだけど、いつも何かやっているなど感じさせる公民館活動でありたいという願いを込めながら、日々取り組んでいる毎日である。

文殊山は、文殊地区のシンボルであるということを強く印象づけられた。文殊公民館のいろいろな事業は、文殊山と関連する内容のもの、地域への愛着を深める内容のもの、地域の方々からの要望をかなえる内容のもの、地域の子もたちとのふれあいを深める内容のもの等と大変盛りだくさんな内容があり、館長さん、主事さんの奮闘ぶりがうかがえた。